

お父さんとうがないと言いうと

「かわいそう」

と言いわれます。

私わたくしは五人兄弟ごにんきょうだいの末っ子すえです。

私わたくしは五人ごにんを一人ひとりで育ててきた

かわいそうとお母さんかあの娘むすめで幸せしあわせだし、

かわいそうと思おもったことはありません。

お母さんかあは私わたくしの憧あこがれだよ。

菅原すがわら 結花ゆいか
(高1 輪島市)

深夜しんやに私わたくしの部屋へやに

洗濯物せんたくものを片付けかたづて来きてくれる時とき、

寝ねている私わたくしの頭あたまをなでてから

部屋へやを出でていくの実じつは知しっているよ。

いつも寝ねたふりしちゃうけど、

なでてもらった後あと、

とっても幸せしあわせな気持ちきもちになります。

魔法まほうの手てだね。

出嶋でじま 心遥こはる
(高2 白山市)

お父さんへ

もうすぐ十八歳になります。

小学生の時に連れてってくれた

空港見学で、夢を見つけました。

その夢は、今でも変わらず

追いつけています。

いつか夢が叶ったら、

制服姿見に来てね。

空港で待っています。

大矢 真子（高3 小松市）

たまたま見つけた私の母子手帳には、

あなたの小さな文字が

ぎっしり並んでいました。

期待や喜びも不安や悩みも沢山で、

この頃から私に目一杯の愛情を

注いでくれていたんだと知り、

すごく嬉しかったです。

ありがとう！

村上 葉乃（高3 白山市）

急に難病が分かった時、
二人で泣いたね。
心配掛けてごめんね。
高校生のあなたに
歳の離れた弟のお世話や家の事を
させてしまつてごめんね。
ごめんて言わないでつて言われるから、
ありがとう！と心から伝えたいです。

レイナのママ（一般 金沢市）

未来へつむぐ家族の手紙

平成10年度より27年間続いてきた
親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」。
今までに、のべ四五万二一九四家族からの応募がありました。
今後、多くの方々が家族のことに思いを馳せる時間を持ち、
石川の家族があなたかな未来をつむいでいくことを願い、
今年度、「未来へつむぐ家族の手紙」へと生まれ変わりました。
また、新たに個人部門を設け、県内高校生や大学生、
一般の方、その他、石川県にゆかりのある方まで、
広く募集しました。

